



2 鳥取県立博物館の開館50周年を迎えて

エドモントサウルスを襲うティラノサウルス
復元画：月本佳代美

3 企画展 令和4年4月9日(土)～5月15日(日)

三蔵法師が伝えたもの

奈良・薬師寺の名品と鳥取・但馬のほとけさま

4 企画展 令和4年6月18日(土)～8月28日(日)

ティラノサウルス展 ～T.rex 驚異の肉食恐竜～



5 [自然] コラム 県立科学博物館から受け継いだもの ～「50年」の前の「25年」～

6 [人文] コラム BACK TO 1972

7 [美術] コラム 50歳を迎える美術コレクション

8 『博物館ニュース』の50年、移動美術館の開催について



鳥取県立博物館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM

鳥取県立博物館の開館50周年を迎えて

昭和47年10月に開館した鳥取県立博物館は今年の秋、開館50周年を迎えます。県立博物館が開館した時、私は小学校三年生でした。かつての市民球場跡に建設された新しい博物館を初めて訪れた時の驚きを私は今でもはっきりと覚えています。自然の常設展示の最初に設えられたジオラマがもの珍しく、私は友達と一緒にほぼ毎日この博物館に足を運びました。中学や高校に進んだ後も学校が近かったこともあり、私は博物館の展覧会やイベントに足繫く通い、おそらくこの経験は私の進路を定めました。

それから50年もの時が経過したことにあらためて驚くとともに、今も同じこの博物館に小学生や中学生が足を運び、楽しそうに展覧会や展示をめぐっている場面に出会うと懐かしく、博物館に関わる者として誇りを感じます。インターネットが発達し、見たいものや知りたいものをパソコンの画面上に直ちに呼び出すことができるようになりました。しかし身近にあって化石や標本、土器や昔の道具、そして絵画や彫刻の実物に出会う場所として、博物館の意義は増すことこそあれ、決して減じることはいないからです。

鳥取県立博物館は全国的にも珍しい自然、人文、美術の総合博物館として開館しました。その後、都市部では



50年前の鳥取県立博物館 遠景

ジャンルごとに別々の施設が建設されましたが、異なった分野が寄り合った県立博物館のスタイルは鳥取県にふさわしいように思われます。ここに来れば短い時間で鳥取という小さな県の自然と文化を一望することが可能であり、生まれ育った土地への愛着が強まるからです。とはいえ、開館から50年を経て施設の老朽化と収蔵庫の狭隘化は避けられません。施設の改修と展示のリニューアルを見越して、令和7年春には美術部門が新しい県立美術館として独立することとなりました。開館50周年という節目の年に、新しい美術館の起工式が行われることに一つの因縁を感じます。

思うに50年、半世紀という時の長さは、人が記憶として保持しうる時間の限界かもしれません。昭和47年に新設された博物館を訪れた印象は私の記憶のほぼ上限に位置します。古代から現在へ、年長者から若者へ、博物館という施設は記憶を運ぶ船でもあります。この意味で開館50周年という節目は新しい船出の時でもあるでしょう。今年、博物館では紀年にふさわしい展覧会や企画を準備して皆さんのお越しをお待ちしています。

コロナ禍もいつか記憶となる日が到来します。半世紀の間の御利用に感謝するとともに、新しい半世紀に向けて、職員一同、新たな思いとともにこれからも仕事に取り組んでまいります。

(館長 尾崎 信一郎)



開館当時の自然常設展示室「地球の歴史と生物の進化」の展示



企 画 展

三蔵法師が伝えたもの

奈良・薬師寺の名品と鳥取・但馬のほとけさま

令和4年4月9日(土)～5月15日(日)

(主催) 薬師寺展実行委員会



図1 玄奘三蔵取経図(薬師寺蔵)

この僧は三蔵法師の通称で知られる中国・唐時代の実在の人物である玄奘三蔵(602～664)で、本図は玄奘のインドへの取経の旅を描いたものとされます。玄奘はインドへの苦難の長旅を経て、大般若経をはじめとする多くの仏典を招来、翻訳し、東アジアの仏教思想に大きな影響を与えました。その偉大な事蹟は、中国において伝説化が進み『西遊記』へと説話化されます。そういえば、図像に描かれた従者のうち、後ろの妖怪風のものは沙悟浄に似ているような気がします。

玄奘三蔵ゆかりの地 奈良・薬師寺

日本における玄奘三蔵ゆかりの地のひとつが、奈良を代表する古刹・薬師寺です。薬師寺は、玄奘を鼻祖とする法相宗の大本山であるとともに、境内の玄奘三蔵院伽藍では1942年中国・南京で発見された玄奘の頂骨の一部を安置します。本展覧会では、薬師寺が所蔵する三蔵法師ゆかりの名品を紹介するとともに、三蔵法師の影響の広がりを示す鳥取県内や但馬地方(兵庫県北部)の仏教美術を多数展示します。次に、そのなかからいくつか紹介します。

三蔵法師の影響を受けた名品たち

本展では、国宝・重要文化財あわせて13件出陳されます。そのなかのひとつが国宝「慈恩大師像」です(図2)。慈恩大師(632～682)は、玄奘三蔵の弟子として、多数の仏典の翻訳と注釈につとめた唐代の僧です。たくましい首筋や堂々とした面貌、腹の前で両手の十指を交差さ

げんじょうさん ぞう 玄奘三蔵とは

従者を前後に従え白馬にまたがる僧を描く左の絵画は、中国・元時代(1271～1368)の作品とされています。僧の周囲には、仏や菩薩に見られる円光や涌雲が起っており、この僧がかなり高徳の人物であることがわかります。

この僧は三蔵法師の通称で知られる中国・唐時代の実在の人物である玄奘三蔵(602～664)で、本図は玄奘の



図2 国宝 慈恩大師像(薬師寺蔵)

せる特徴ある姿を大画面いっぱいに描く、平安時代肖像画の名品のひとつです。

本展では仏像彫刻も数多く出陳されます。奈良から平安時代への木彫の展開を考える上で重要とされている重要文化財・木造十一面観音立像(奈良時代、薬師寺蔵、図3)、鳥取県内の木造彫刻で最古の重要文化財・木造千手観音立像(平安時代、観音寺蔵、図4)は必見です。このほか、県内の法相宗ゆかりの地である白山神社(南部町賀祥)に伝わる秘仏・十一面観音坐像(南部町指定文化財)など、この機会にしか見ることができないものが多く展示されますので、お見逃しなく。

(学芸課 大嶋 陽一)



図3 重要文化財 木造十一面観音立像(薬師寺蔵)



図4 重要文化財 木造千手観音立像(北栄町・観音寺蔵)

- 休館日：4月18日(月)、5月9日(月)
- 観覧料：一般/700円(団体・前売・大学生・70歳以上/500円)

関連イベント

会期中には、企画展関連イベントを多数予定しております。



復元画：
月本佳代美

企 画 展

ティラノサウルス展 ～*T.rex* 驚異の肉食恐竜～

令和4年6月18日(土)～8月28日(日)

(主催) ティラノ展実行委員会・読売新聞社

約6800万年前の北アメリカ大陸にティラノサウルス・レックス(以下、ティラノサウルス)は出現しました。全長約13mという巨体に鋭い牙がズラリと並ぶ恐ろしい頭骨。まさに学名 *Tyrannosaurus rex* (“暴君トカゲの王”の意) にふさわしい姿をしています。本企画展では、ティラノサウルスの全身骨格「アイヴァン Ivan」や「ジェーン Jane」のレプリカ展示とともに、大迫力のロボットやインタラクティブ映像も取り入れ、ティラノサウルスの姿かたち・身体能力・進化のプロセスなどを、最新の学説をもとに解説します。

ティラノサウルスの有名な化石たち

1902年、最初のティラノサウルス化石が発見されました。その後の1905年、この化石に *Tyrannosaurus rex* という学名を与えた論文が発表されます。それ以降、現在までにティラノサウルス化石は50体以上が発見されており、とくに良い化石には愛称が付けられています。

保存率73%を誇る「スー Sue」(アメリカ産/フィールド自然史博物館)や63%の「スタン Stan」(アメリカ産/ブラックヒルズ地質学研究所)、死のポーズが残された「ブラック・ビューティ Black Beauty」(カナダ産/ロイヤルティレル古生物学博物館)はその代表でしょう。

では本企画展で展示される「アイヴァン Ivan」と「ジェーン Jane」はどのようなティラノサウルス化石なのでしょう。



ジェーンの全身骨格レプリカ



アイヴァンの全身骨格レプリカ

アイヴァン Ivan

～連続した脊椎骨の発見～

アイヴァンは2005年にアメリカ・サウスダコタ州で発見されたティラノサウルス化石で、その土地の所有者アイヴァン・マクギー氏にちなんで愛称が名づけられました。全長は約12mで、脊椎骨や後肢の骨などを中心に全身の約40%が見つっています。とくに脊椎骨はよく保存されており、首から尻尾までの脊椎骨の形の違いをよく観察することができます。化石はアメリカ・カンザス州のワールドトレジャー博物館が所蔵しています。

ジェーン Jane ～ティラノサウルスの亜成体～

ジェーンは2002年にアメリカ・モンタナ州で発見されたティラノサウルス化石で、この化石を所蔵するアメリカ・イリノイ州のバービー自然史博物館の活動支援者ジェーン・ソレム氏にちなんで愛称が名づけられました。全長は約7mで、全身の約52%が保存されており、とても長い後肢が特徴的です。11～12歳程度の亜成体の化石と考えられていますが、別種の小型ティラノサウルス類のナノティラヌス *Nanotyrannus* とする説もあります。

アイヴァンやジェーンのほか、ティラノサウルスに近縁な恐竜を中心にさまざまな恐竜の全身骨格レプリカも展示します。驚異の肉食恐竜、ティラノサウルス。その大迫力の世界をお楽しみください！

(学芸課 田邊 佳紀)

- 休館日：6月20日(月)、27日(月)、7月4日(月)、11日(月)
- 観覧料：一般/1,000円
(団体・前売・大学生・70歳以上/800円)

関連イベント

会期中には、企画展関連イベントを多数予定しております。



県立科学博物館から受け継いだもの ～「50年」の前の「25年」～

25年間の歴史

鳥取県立博物館は、今年、開館50周年を迎えます。総合博物館として半世紀の間活動してきましたが、これに先立つおよそ25年間にも、博物館活動の歴史があります(表)。

原点は昭和22年、鳥取県立公民館内設置の「科学部」です。これが母体となり「鳥取県立科学館」(後に「鳥取県立科学博物館」)が現在の仁風閣に開館しました。当初は理工学分野が中心で、やがて地学、生物、考古、民俗部門の活動が加わります。そして昭和47年新築開館の「鳥取県立博物館」に引き継がれるのです。

この25年間での収集資料は約2万点にもなりました。このコラムではその中から動物標本2点を選び、紹介します。

アジアゾウ全身骨格標本

昭和33年11月、鳥取公設運動場(現在の県立博物館がある場所)で開催された「世界動物博覧会」にて、メスのアジアゾウが死亡しました。これを譲り受け、鳥取大学

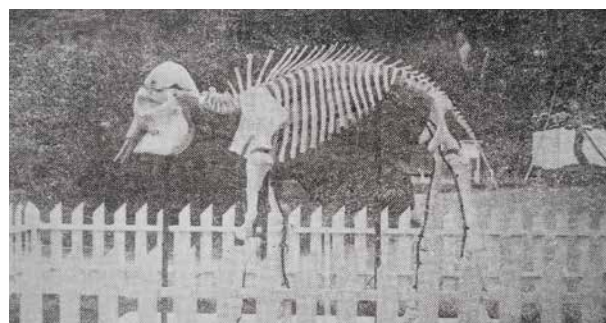


写真1 昭和36年、公開直後のアジアゾウ全身骨格。
県立科学博物館刊行の普及誌『郷土と科学』第7巻1号の表紙に掲載された写真。

獣医学生や学芸員らの尽力により解剖、骨格を組み上げたのがこの標本です。当時、ゾウの全身骨格は全国的にも希少でした。県立科学博物館時代は建物の玄関わきに屋外展示され(写真1)、現在は当館1階休憩スペースに展示されています。

ダイセンニシキマイマイ貝殻標本

昭和39年に大山で採集されたカタツムリです(写真2)。鳥取県内では現在でも山地やその周辺に広く見られる種類で、取り立てて珍しくはありません。ですが、この標本は「その時その場所にこの種類がいた」という確実な証拠となり、当時の自然環境を知る重要な手掛かりとなります。どんなに技術が進んでも、過去に戻って採集し直す事はできません。その時代ごとの標本を収集し、保管していく博物館ならではの財産です。



写真2 ダイセンニシキマイマイ貝殻標本。
1964年9月27日、大山で採集されたもの。目盛りは1mm。

表 鳥取県立博物館開館までの25年

年	組織体制等	おもな常設展示等
昭和22	鳥取県立公民館内に図書部、科学部、集会部が設置	※展示室はなし ※科学部は理工科学を中心に県民の科学技術・知識の普及を図る
24	鳥取県立科学館の名称で仁風閣1階に開館 物理、電気、化学、地学の4部門の指導研究室を設置	※展示室はなし ※仁風閣の2階は県世話課、教育研究所、農業総合研究所が使用
25	生物部門を新設 物理、電気、化学、地学、生物の5部門となる	展示室を新設、昭和28年まで約1年ごとに交替展示: 天文科学展→郷土科学展→電気科学展→照明科学展
29	鳥取県立科学博物館と改称登録博物館となる	※県世話課等が仁風閣から転出仁風閣2階部分も展示室に使用 照明科学室、天文展室、地学展室、生物展室、砂丘の科学展室を設置
30	考古部門を新設 物理電気、化学、生物、地学、考古の5部門に再編成	動物生態展室、考古展室、電気展室の新設
38	理工学部部門の廃止	理工系展示室の廃止 ※電気展室のみ継続
39	民俗部門の新設 地学、生物、考古、民俗の4部門	民俗展室の新設 地球の歴史展室、砂丘展室、地学展室、生物展室、考古展室、民俗展室、電気展室となる
46	美術係を新設	地球の歴史、電気展室を閉鎖
47	史料係を新設 鳥取県立博物館が新築開館 学芸課は学芸係(地学、生物、考古、民俗)、美術係、史料係、の3係体制	旧科学博物館展示室を閉鎖 新県立博物館へ資料等を移転 地学・生物展示室、考古・民俗展示室、美術展示室、史料展示室

この2点に限らず、どの収蔵資料もそれぞれの意義をもつ貴重なものです。その収集には各時代の学芸員達の努力、そして地域の皆様のご協力が不可欠でした。50年前、新県立博物館開館の際には約2万点の資料を旧科学博物館から引き継ぎましたが、それだけでなく、学芸員としての熱意や協力者とのネットワークなど、多くのものも先人たちから受け継いでいます。

(学芸課 一澤 圭)



1972はどんな年？

この年、札幌市で冬季オリンピックが開催されました。冬の雪や氷を青色で表現したデザインポスター（第二号）の写真モデルは本県出身の大杖正彦さんです。

右の年表のようなできごとに加え、富士ゼロックス社から両面コピー機が発売されたり、イギリスでコンピューター断層撮影装置（C.T.）が開発されるなど産業・科学技術も進んでいます。ベストセラーは『恍惚の人』、『日本列島改造論』、『坂の上の雲』、ヒット曲は『女の道』、『瀬戸の花嫁』、『結婚しようよ』、『せんせい』、『喝采』、『どうにもとまらない』などがありますが、何といても子どもたちの間でブームしたのは、『変身』する仮面ライダーです。カード付きのスナックは大量に販売されたそうです。

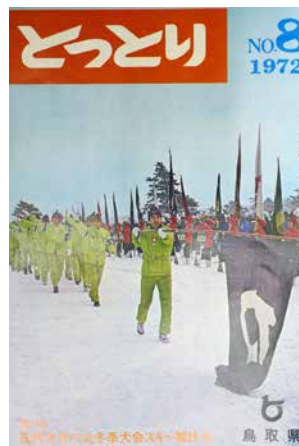
この年、鳥取県ではどんなことがあった？

第27回国民体育大会冬季スキー競技会が、国立公園大山で2月20～23日開催されました（総合成績15位）。実はこの年は雪不足で、開会式当日の明け方まで雪が降らず、関係者をやきもきさせたといまでも語り継がれています。



たくさん子どもたちが開館記念特別展「郷土美術名作展」に入館

月日	2/2	2/3	2/20	2/28	3/15	3/21	5/13	5/15	7/7	7/22	9/29	9/29	10/1	11/5
	横井庄一さんグアム島から帰国	第11回冬季オリンピック札幌大会開幕	「日の丸飛行隊」が活躍	大山で冬季国体スキー競技会開幕	連合赤軍が占拠した「浅間山荘」で銃撃戦	奈良県明日香村の高松塚古墳で極彩色壁画発見	特急やくも号（伯備線）運行	沖縄が日本復帰、沖縄県として発足	大阪千日前デパート火災で一八人死亡	田中角栄内閣成立	境水道大橋開通	日中共同声明調印、国交正常化	山陰中央テレビ放送、鳥取県でも視聴可となる	上野動物園で公開されたパンダが人気を博す



広報紙の表紙を飾る鳥取県選手団



民放テレビ三局山陰で一斉放送される

特急やくも号の新設や境水道大橋開通など、交通網が発達したこの年の、10月1日にはそれまで島根県域でテレビ放送をしていた山陰中央テレビジョン放送株式会社が、鳥取県内でも見られるようになりました。そして同日に、鳥取県立博物館が開館したのです。

どんな博物館？

この時期、多くの都道府県で記念事業として博物館・美術館が建築されています。近県では旧島根県立博物館（1958）、山口県立山口博物館（1967）、広島県立美術館（1968）、岡山県立博物館（1971）などです。当時の施設は、いずれも社会教育に重点を置きました。当館も条例に謳っているとおり、県民の教育及び文化の発展に寄与するための施設として開館した総合博物館です。令和7年の春には倉吉市に県立美術館が新しく開館しますが、この博物館は自然と歴史民俗分野の博物館として改修を進め、郷土教育に力を入れる施設でありたいと思います。

（学芸課 福代 宏）

50歳を迎える美術コレクション

平成最後の年となった平成31年の2月、当館では「Our Collections！鳥取県のアート・コレクションの、これまでとこれから」と題した企画展を開催しました。企画の趣旨は、同展の概要を紹介する本誌No.26（平成30年9月発行）の拙稿でも触れましたが、昭和47年10月に開館してから平成29年度までの間に収集した1万点近くのアート作品・資料群の中から、幾つかの視点で選り出した代表的な作品68点を展示することと、令和7年春（令和6年度中）に開館予定の県立美術館に向けた新しい収集のイメージを、特別に借用してきた個人所蔵作品や他館所蔵品で実感してもらうということでした。今回、図版で紹介している作品は、その際に展示した当館所蔵品の一部です。

当館が長い時間をかけて収集してきた美術コレクションは、当館が公的な使命を帯びた館、組織体としてのミュージアムであるがゆえに、ある収集方針に基づいて形成されました。その方針とは、開館してから令和2年度までは原則として『鳥取県の美術』の収集であり、若干の例外はあるものの「鳥取県にゆかりのある作家

や、その作家とつながりのある作家の作品で、現存・物故を問わない」ものに絞ってきました。しかし現在は、本誌No.32（令和3年9月発行）の「新収蔵品紹介」の記事で紹介したように、県立美術館を視野に入れた新しい大方針『国内外の優れた美術』と



島田元旦《秋景山水図》江戸時代後期、絹本・着色、昭和46年度鳥取北ロータリークラブ寄贈



前田寛治《西洋婦人像》1925年頃、油彩・キャンヴァス、昭和47年度鳥取銀行寄贈

塩谷定好《赤碓雪景》1932年、ゼラチン・シルヴァー・プリント、平成11年度購入



『同時代の美術の動向を示す作品』を加え、その幅を広げる方向に舵を切っています。

この機会に、あらためて当館の年報のバックナンバーを紐解き、開館以降当館に配属され、美術にまつわる業務に直接携わったスタッフの名簿を確認してみました。すると、現役の職員を含めて合計で27名もの職員がい

たことがわかりました。そのうち、5年以上配属され、コレクションの形成に深く関与したと思われる専門職員は17名にもなります。

一般論として、ある作品が館の収蔵品になるには、外部の有識者からなる収集評価委員会等を経なければなりません、公



辻音堂《拾得》1958年、陶彫、昭和63年度購入

的機関とはいえ、どうしてもその時々専門職員の視点や、社会の中にある美術への考え方が影響してくるように思います。むしろその方が、長い目を見たときには良い作品が集まると言われることもあって、収集の方針や基準はあまり厳密に定めず、比較的大枠の中で柔軟に運用される…。それは当館でも同様と考えています。

令和4年10月に当館は50歳を迎えます。コレクションづくり（収集）とは、未来の来館者に向けて行われる完成のない長期的な事業であり、各時代の人間たちが生み出した表現を、その時に館にいるスタッフが慎重に取り上げていくものです。それは50歳を過ぎ、美術館ができてからもずっと続いていきます。

み うらつとむ
（美術振興課 三浦 努）

『博物館ニュース』の50年

当誌は発刊して16年となります。では、それ以前の広報誌はどんなものがあったのでしょうか。今号に至るまでの歴史を振り返ります。

「博物館ニュース」は、前身である鳥取県立科学館時代に刊行された普及刊行物『科学館シリーズ』*の中の1コーナーとして始まりました（当時は「科学館ニュース」）。その内容は、企画展や普及講座などの活動報告が主で、広報ではなく事業報告がメインです。

それとは別に、展示案内やイベント情報等を周知する普及誌『博物館だより』が昭和53年に誕生します。実はこちらの方が当誌に近いのですが、平成11年に廃刊となりました。

※昭和33年から『郷土と科学』、昭和47年から『郷土と博物館』に改称

『科学館シリーズ』
昭和28年～30年

『郷土と科学』
昭和33年～47年

『郷土と博物館』
昭和47年～平成17年

『博物館だより』
昭和53年～平成11年

こうした紆余曲折を経て、平成17年度末に普及刊行物を大幅リニューアルし、A4判8頁

オールカラーの『MUSEUM PRESS 鳥取県立博物館ニュース』（現・鳥取県立博物館ニュース）が誕生しました。

企画展やイベント情報は、今やインターネットで手軽に入手できる時代になりましたが、それでも紙ならではの親しみやすさは未だに残っています。今後も引き続き『博物館ニュース』を皆さんにお届けしたいと思っています。

（学芸課 ちゃや みつる
茶谷 満）



南部町で移動美術館を開催！「もう少し版画りましょう」

令和4年

会期 7月23日(土)～8月7日(日)
(16日間、会期中無休)

時間 午前9時～午後5時

入場
無料

問合先 会場 キナルなんぶ(多目的ホール)
鳥取県西伯郡南部町法勝寺341
TEL 0859-46-0870



当館の美術コレクションを県内ミュージアム施設等で出張展示する「移動美術館」。令和4年度は、夏休みの期間に合わせ、昨年度新しく南部町にオープンした複合施設「キナルなんぶ」にて開催します。当館の美術コレクションの中から版画作品の優品をセレクトし、多種多様な表現や技法を示しながら、改めて版画の魅力を紹介する予定です。是非ご来場ください。



橋本興家《錦秋 姫路城》1951年／木版画・紙／鳥取県立博物館蔵

（美術振興課 山本 亮）

鳥取県立博物館ニュース No.33

令和4年(2022年)3月25日発行

編集・発行 鳥取県立博物館

住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地
TEL 0857(26)8042(代)

FAX 0857(26)8041

URL <https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/>

E-mail hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp



博物館 HP



- 入館料：常設展／一般180(150)円
()内は20名様以上の団体料金
- 開館時間：9時～17時(入館は16時30分まで)。
一部、19時(入館は18時30分)まで開館の土曜日あり。詳細はお問い合わせください。
- 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌平日が休館日)
国民の祝日の翌日(土、日、祝日の場合を除く)
年末年始(12月29日～1月3日)

※具体的な休館日等は、ホームページでご確認ください。



- JR鳥取駅からバスで
- A100円/バス「くる梨」線コース「仁風閣・県立博物館」下車すぐ
- Bループ麒麟獅子「③鳥取城跡」下車すぐ
- C砂丘・湖山・賀露方面行「西町」下車、約400m
- D市内回り岩倉・中河原方面行「わらべ館前」下車、約600m
- JR鳥取駅からタクシーで…約10分
- 鳥取砂丘コナン空港から…鳥取駅行連絡バス「西町」下車、約400m
- お車で…鳥取自動車道・鳥取ICまたは鳥取西ICより約15分

※当館駐車場21台駐車可能。満車の場合は県庁北側駐車場[無料]へ

お客様の満足のその先へ…
MORRIS
株式会社モリックスジャパン

TEL 0857-23-3641

本社 鳥取市商業町203-6
倉吉店 倉吉市下田中町870 中瀬ビル3F
<http://www.morrix.co.jp/>



日本通運株式会社 鳥取事業所
TEL 0857-28-0202